新病院ニュース

● 紹介状をお持ちください

平成28年4月から診療報酬の改定により、他の医療機関からの紹介状を持たずに大病院（500床以上）を初診で受診された場合は、初診料のほかに「初診時選定療養費」の自己負担が義務化されました。
新病院もこの改定の対象となっています。つきましては、紹介状をお持ちでない初診の患者さんには、初診時選定療養費として**5,000円**（税抜）（歯科3,000円(税抜)）をお支払い頂く必要があります。

紹介状を持参されていなくても選定療養費の不要な方
●救急患者 ●公費負担医療の対象患者 ●特定健診、がん検診等の結果により精密検査の指示があった患者等

また、当院での治療が終了し、かかりつけ医等へ紹介を行いました後も、引き続き当院での診療を希望される場合は、再診時選定療養費として**2,500円**（税抜）（歯科1,500円(税抜)）をお支払い頂く必要があります。

ご理解の程お願いいたします。

● 個室・特別室等について

新病院では個室・特別室等を以下のとおりご用意しています。差額ベッド料は健康保険の対象外となりますので、患者さんにご負担頂くこととなります。また室数に限りがあります為、ご希望に添えない場合があります。ご理解の程お願いいたします。

	面　積	内　　容	室　数	料金（1人1日）
特別個室	約38㎡	トイレ、シャワー、バス、テレビ、冷蔵庫、応接セット、キッチン	1室	30,000円（税抜）
特別個室	約29㎡	トイレ、シャワー、バス、テレビ、冷蔵庫、応接セット、キッチン	1室	28,000円（税抜）
個室A	約20㎡	トイレ、シャワー、テレビ、冷蔵庫	58室	14,000円（税抜）
個室A’	約19㎡	トイレ、シャワー、テレビ、冷蔵庫	10室	12,000円（税抜）
個室B	約19㎡	トイレ、テレビ、冷蔵庫	61室	9,000円（税抜）
2床室	約40㎡	テレビ、冷蔵庫	2室	5,000円（税抜）

● 病院ボランティア募集

新病院でボランティア活動員を必要としています。ご興味のある方は、ご連絡下さい。
<お申込み・お問合せ> 加古川西市民病院　TEL 079-432-3531（代）ボランティア担当

● 新病院 ～ 加古川駅 シャトルバスのご案内

加古川中央市民病院～JR加古川駅間の無料シャトルバスを運行します。
ぜひご利用ください。

月曜日から金曜日　午前7時～午後7時まで（15分間隔で運行・5分で直通運行）

加古川駅発	00	15	30	45	始発　7:15	最終 18:45
加古川中央市民病院発	10	25	40	55	始発　7:10	最終 18:55

※道路状況により発着時刻が前後する場合がございます。
※満員の場合、予定時刻より早く出発します。　※年末年始及び祝日は運行しません。

※停車位置が前後する場合がありますので、周辺をよくご確認ください。

地方独立行政法人
加古川市民病院機構
加古川中央市民病院
兵庫県加古川市加古川町本町439
http://www.kakohp.jp/

加古川西市民病院
〒675-8611 兵庫県加古川市米田町平津384-1
TEL:079-432-3531（代）

加古川東市民病院
〒675-0115 兵庫県加古川市平岡町一色797-295
TEL:079-437-2515（代）

加古川市民病院機構から地域の皆さまへ
つつじ
TSU TSU JI
2016 6

連載特集　5大センター　P4～7

開院まであと1ヶ月、内装の最終整備、医療機器の設置が急ピッチで進んでいます。
新病院では、最新の医療設備に加えて、患者図書コーナー、カフェなどのアメニティーや随所にホスピタルアート、屋上庭園などの癒しの空間も設けています。
新病院で皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。

開院直前 新病院の姿

開院直前
特集

加古川中央市民病院のかかり方

外来診療の流れ

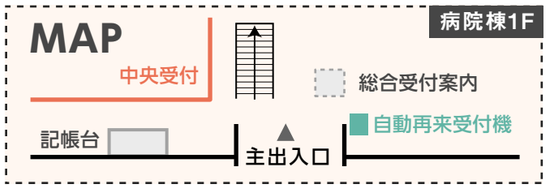
初めて当院を受診される患者さんは、**原則として他の医療機関からの紹介状が必要です。**
そのため、かかりつけ医からの初診予約をお勧めしています。
初診予約があれば当日の待ち時間が短縮され、紹介状を通じて患者さんの医療情報が**事前**に当院へ引き継がれることになります。ぜひ紹介状をお持ち下さい。
なお、紹介状のない方でも受診できますが、初診時に選定療養費として5,000円(税抜)別途ご負担いただきますので、ご了承願います。

※ 選定療養費の詳しい説明は、本誌最後のページをご覧ください。
※ 1年以上受診歴のない患者さんは初診受付にお越しください。

初診
- 予約なし → 総合受付案内(受診診療科が不明な場合) → 記帳台(※ 診療申込書記入) → 初診受付(紹介状がある方⇒紹介あり窓口)(紹介状がない方⇒紹介なし窓口)
- 予約あり → 初診受付(紹介状あり窓口)

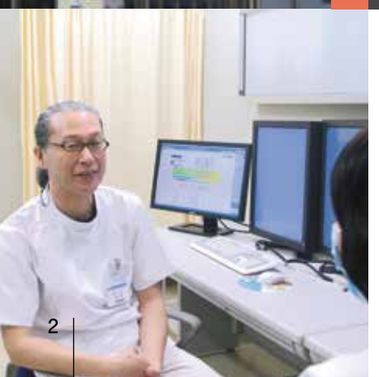
再診
- 予約なし → 自動再来受付機 → 各検査受付
- 予約あり・診察前検査 → 自動再来受付機 → 各検査受付
- 予約あり → 各検査受付

各診療科受付



総合内科

総合内科 主任科部長 金澤(かなざわ) 健司(けんじ)



内科といっても色々な名前の科があります。身体の調子が悪い、内科受診を勧められたといった場合に、いざ病院に行ってもどの科を受診すればよいかわからない、色々な病気を持っていて自分ではどこの調子が悪いかわからない、といったことがあるかと思います。そのような患者さんの診断と治療を専門としておりますので、総合内科を受診して下さい。私たちは、様々な専門医の先生方と相談しながら、患者さん一人一人に最も適した医療を提供します。

リレー×メッセージ
― 新病院へつなぐ ―

耳鼻いんこう科

耳鼻いんこう科 医療スタッフ ▼

耳鼻いんこう科 主任科部長
安井(やすい) 理絵(りえ)

1月より医師3名体制となりました。
今まで通り小児から成人までの幅広い疾患に対応いたします。中耳炎、副鼻腔炎、扁桃炎、睡眠時無呼吸症候群、頚部良性腫瘍などは当院での対応が可能です。悪性疾患は神戸大学、県立がんセンターに紹介させていただきます。
手術をお待たせする時間を短縮し、開業の先生からの依頼も積極的に対応いたします。今後は涙嚢鼻腔吻合術など鼻内手術の充実と嚥下障害への対応などにも柔軟に対応できるように環境を整えていきますので、よろしくお願いいたします。

糖尿病内科

糖尿病内科 医療スタッフ ▼

糖尿病内科 医長
楯谷(たてや) 三四郎(さんしろう)

新病院では非常勤医師が1名増えて、常勤医2名、非常勤医2名の体制になります。HbA1cだけではわからない血糖変動を評価する目的で新病院への移行前からですが持続グルコース測定(CGM)外来を開始することになりました。CGMとはセンサーの先端を腹部などの皮下に固定して、24時間以上継続的に、1日最大288回血糖を測定することが可能な測定方法で外来で行えます。従来の血糖自己測定(SMBG)では分からなかった夜間睡眠中や明け方、多忙な仕事中など、測定困難な時間帯の血糖値が明確にわかるようになります。新病院では循環器内科や形成外科とも連携することで心臓血管はもとより、末梢血管障害や足病変に対する内科的、外科的治療が可能になります。これまで以上に糖尿病患者さんにとって充実した治療を受けやすい環境になりますので、是非かかりつけ医にご相談の上、受診してください。

精神・神経科

精神・神経科 医療スタッフ ▼

精神・神経科 主任科部長(兼)
認知症疾患医療センター長
河野(こうの) 将英(まさひで)

従来通りの外来診療、認知症疾患医療センター機能、リエゾン診療、院内緩和ケアチームへの協力などを維持していくことは勿論ですが、リエゾン診療をさらに拡充した精神科リエゾンチーム、また認知症ケアチームを立ち上げたいと思っています。「リエゾン」とはフランス語で連携するという意味です。身体科の医師と連携して入院している患者さんの様々な精神科的な問題に対応していきたいと考えています。認知症ケアチームはある程度以上の認知機能低下をきたしている入院中の患者さんのケアを考えていきます。2つのチームを機能させることで病院全体の診療機能向上に繋がればと思っています。

新病院では、5つ の領域を診療センターと位置づけ、患者さんを中心に、診療科の枠を超えて最適な治療を行います

特集　5大センター　消化器センター

消化器内科　消化器外科

全領域をカバーし良質な診療を

当院「消化器センター」の大きな特色は、食道、胃、大腸のみならず、小腸も含めたすべての消化管疾患に対応できることです。早期癌に対する内視鏡治療と身体への負担が少ない低侵襲の外科手術は、当センターの得意分野です。専門医が加わった炎症性腸疾患の分野でも診療機能が大きく向上しました。
肝臓、胆道、膵臓の分野では、播磨地域随一を誇る胆膵内視鏡治療に加えて、複数の専門医が赴任したことによって、膵癌、胆道癌、肝癌の治療がさらに発展します。

加古川西市民病院副院長(兼)消化器内視鏡センター長(兼)
消化器内科　主任科部長
寺尾（てらお） 秀一（しゅういち）

90代でも、早期胃癌はESDで治る!

ESDとは「内視鏡的粘膜下層剥離術」の略語です。早期(浅い)がんに対して一度に完全に取り切れる治療法です。
【ESDは下記の手順で行います】

消化器内科　医長
田村（たむら） 勇（いさむ）

外科手術について

消化器センターの外科部門は、消化器内科部門と密に連携しています。胃がんや大腸がんの悪性疾患はもとより消化管穿孔、腸閉そく、胆のう炎など緊急に外科治療を要する疾患の治療にあたります。悪性疾患に対しては、内視鏡的治療から手術に至るまで進行度に応じた適切な治療を目指します。さらに緊急疾患に対してはスピーディーな治療を心掛けています。

理事(兼)加古川西市民病院副院長(兼)外科　主任科部長
金田（かねだ） 邦彦（くにひこ）

EUS、EUS-FNAについて

胃・大腸と違い直接内視鏡が届かない膵臓がんなどの確定診断に超音波内視鏡検査・穿刺針生検という方法があります。超音波機器（エコー）の付いた内視鏡を胃・十二指腸に挿入し、膵臓腫瘍を写し出します。その後エコー画像を確認しながら内視鏡を通して約0.5～1mmほどの針を刺し、組織を吸引採取することにより診断を行います。生検では確定診断がつきにくい壁内部の腫瘍（粘膜下腫瘍）に対してもこの検査は有用です。当院では積極的にこのような超音波内視鏡検査・穿刺針生検を行っています。

消化器内科　医長
當銘（とうめ） 成友（まさとも）

内視鏡でピロリ菌の正しい診断を

内視鏡を受けた時には、必ずピロリ菌の状態を正確に聞いてください。「ピロリ菌はいない」では不十分です。同じ「ピロリ菌はいない」でも、ピロリ菌に一度も感染していないピロリ菌未感染の方の胃がんのリスクは極めて低く、一方過去に感染のあったピロリ菌既感染の方のリスクは高いからです。除菌治療の覚えのない方でも既感染はあります。当センターでは内視鏡を受けるすべての方に正確な情報を伝えるよう努めています。

寺尾（てらお） 秀一（しゅういち）

小腸（ダブルバルーン内視鏡、カプセル内視鏡）について

小腸には、出血、炎症、腫瘍など様々な病気が生じます。その診断や内科的治療のため、小腸カプセル内視鏡や小腸バルーン内視鏡が用いられます。当院では両方の内視鏡が完備されており、日々多くの小腸疾患を診療しております。小腸出血に対して緊急で止血処置をしたり、間違って飲んでしまった異物を摘出したり、腫瘍を的確に診断して外科手術につなげたりと、小腸内視鏡が活躍する機会はますます増えつつあります。

消化器内科　科部長　西澤（にしざわ） 昭彦（あきひこ）

新病院では、5つ の領域を診療センターと位置づけ、患者さんを中心に、診療科の枠を超えて最適な治療を行います

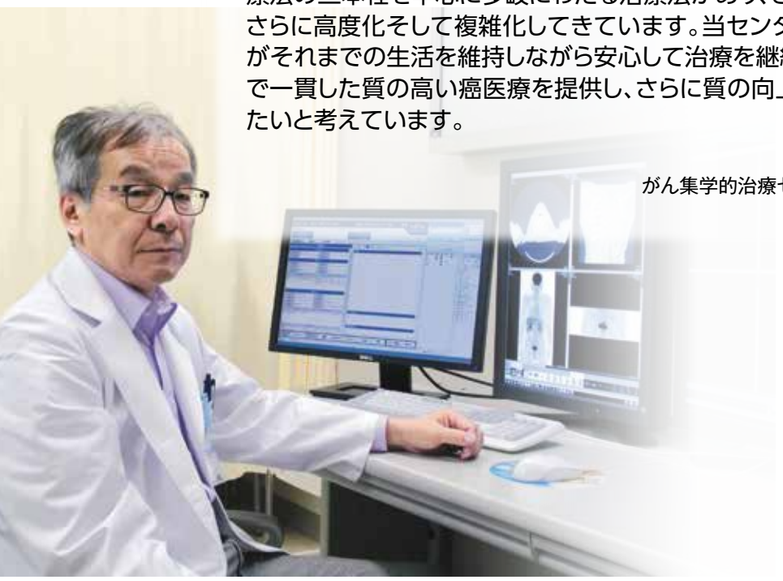
特集　5大センター　がん集学 的治療センター

放射線科　消化器内科　消化器外科　腫瘍・血液内科　呼吸器内科　呼吸器外科　緩和ケアチーム

患者に寄り添った 質の高いがん治療を目指します

現在、日本では癌患者数が急速に増加しています。癌治療においては、手術・放射線治療・化学療法の三本柱を中心に多岐にわたる治療法があり、さらに緩和ケアという柱も加わり、近年ではさらに高度化そして複雑化してきています。当センターでは、地域にお住まいの癌患者の方々がそれまでの生活を維持しながら安心して治療を継続できるように、診断から治療・緩和ケアまで一貫した質の高い癌医療を提供し、さらに質の向上を心がけ、地域の癌診療に貢献していきたいと考えています。

加古川西市民病院院長補佐(兼)
がん集学的治療センター長(兼)放射線科　主任科部長　土師（はせ） 守（まもる）



化学療法部門 医療スタッフ

手術部門 ～固形がん・外科手術について～

癌に対する集学的治療の目的は、手術単独では治療成績に限界があるため、化学療法や放射線療法を組み合わせて治療成績を向上させることにあります。現在、私の担当する消化器癌はもとより、肺癌、泌尿器癌、婦人科癌などに対して集学的治療が行われ良好な治療成績を上げています。当センターでは、それぞれのがん腫に対して、外科医、放射線治療医、腫瘍内科医が連携して、当センターとして一貫した治療方針を決める体制をとることにしております。

理事(兼)加古川西市民病院副院長(兼)
外科　主任科部長　金田（かねだ） 邦彦（くにひこ）

放射線治療部門

放射線治療は、全身のあらゆる悪性腫瘍が治療の対象で、根治的な治療から緩和治療まで多岐にわたります。患者さん毎に、各診療科の主治医の先生やメディカルスタッフと連携を取りながら治療に当たっています。また当院の放射線治療部門には、全国でもまだ数の少ない、がん放射線療法看護認定看護師や医学物理士が在籍しているのも一つの特徴です。認定看護師による専門的な看護ケアの提供や、医学物理士による安全かつ高品質な放射線治療の提供が可能となっています。新病院では最新型の放射線治療装置を用いて、患者様やご家族が満足できる安心かつ安全な治療にスタッフ一同努めてまいります。

化学療法部門 ～血液がんについて～

「あなたにとって大切なものは何ですか?」治療目標は、患者さんそれぞれで異なります。化学療法は、その目標を叶える手段の一つです。主治医（専門医）により最善の抗がん薬が選択された後、全ての医療スタッフが一丸となって、治療の継続と安心を支えます。設備の整った新しい通院治療室での治療は、質の高い外来化学療法を行いながら、満足のいく社会生活を送ることも可能であり、近年主流となっている治療スタイルです。また腫瘍・血液内科では、根治を目指す重い血液がんの患者さんに対して、血縁者間の同種造血幹細胞移植も行っています。ぜひ、当院での治療を体験してみて下さい。

腫瘍・血液内科　主任科部長　岡村（おかむら） 篤夫（あつお）

緩和ケア部門

がんと診断されたその時から患者さんは様々なつらさを経験し、その中で治療を受け療養生活を送っておられます。がん看護専門看護師は、患者さんとご家族が大切にされていることや価値観を理解しつらさや問題を一緒に考えていくことで、少しでもその人らしく笑顔で過ごす時間が持てるように支援しています。

がん看護専門看護師　和田（わだ） 尚子（しょうこ）

「緩和ケア」と聞くと「もしかして末期なの?」と思われるかもしれませんが、それは誤解です。がんと診断された時から緩和ケアは始まります。身体面だけでなく精神的な苦痛や様々なつらさを軽減して、前向きに治療に取り組むことができるように、「緩和ケアチーム」が患者さん、ご家族の立場にたってサポートさせていただきます。また、緩和ケア外来では医師と看護師が協働して診療を行います。受診希望の方はまず主治医にご相談下さい。

呼吸器内科　科部長　竹中（たけなか） かおり